

今から3年ほど前から、我が家の一室に7~8名の人達が集まって絵手紙教室(さかた落書き仲間)が始まりました。

きっかけは、絵手紙大賞をとったNさんの展示会で、ご本人と出会ったからであります。またこの稿を書くことになったのは、たまたまテレビである学校の野球部が「孤独なステージの中で、集中力を高めるために」絵手紙を始めたところ、すばらしい成果が上がったと言う放映を見たからであります。

絵手紙は、さり気なく、気さくに書いているように見えますが、瞬間に実物の特徴を捉える集中力が多分必要とするからだと思います。

私には絵心はありませんが、絵画展はなるべく見るようにしております。良いものは必ず見ておくと言う習性は大切だと思っております。

数少ないですが、日本画の小谷津臥牛、雅美親子、版画の斉藤清、巻白等染め絵の芹沢銈介等を集めております。

陶芸も絵も実際に自分でやってみると、普段気にしなかったものを見る目が違ってきます。

絵手紙は書くことも大切であります、書いた物を誰かに送り届けるかが課題であります。

私は幸いにも孫が「味の素」へ入社して、名古屋支店に勤務し、中部地方を担当することになりました。名古屋商圈は、商売が大変厳しい事で業界でも知られておる地域であります。

この地域の業界には私の友人が多くいて、助けられたようですが、その反面もあって大変苦労しておりましたから私は絵手紙を毎日書き送る事にしました。

気取らず、飾らず、ありのままにユーモアを持って、正直に話しかける様に、下手な絵、下手な文字を見て思わず笑ってくれる様、絵の中に私の顔が見えるように字の中から私の声が聞こえるように一生懸命書き送りました。これは気が付いたら孫を元気づける事だけでなく、独居老人である私の孤独感を忘れさせてくれる大きな役割をしてくれていたものでした。

私達の周囲には孤立荒廃社会が日増しにこれから増えて行きます。

日本人寿命は男性 79.5 歳、女性 87.9 歳です。現役凡そ 40 年働いた時間は 8 万時間から 10 万時間ですが、定年後に過ごす時間は 20 万時間あります。

君津市の高齢者は凡そ 2 万 2 千人、独居老人凡そ 2 千人と言われます。絵手紙を広げて行ったら孤立社会、限界集落の中から絶望や孤独な人達を救う事ができると思っております。

私の孫も東京へと転勤となって帰って参りました。土産は私が送った 200 枚を超える絵手紙のファイルでありました。

涙の宝物でありました。

絵手紙は時に、家族の思わぬ絆ともなり、旧交を暖め、新しい出会い、友人も生まれます。

先日会議所のある友人に「十二単」の花の絵手紙を送りましたら、「すばらしい上り藤ね」と誉められました。

絵手紙のおもしろさはむしろ下手な方が暖かみがあって、親近感を作ってくれるようです。

私達の商いは、毎日が忙しく、報われない事も多くありますが、絵手紙などの趣味、情緒感を持つことが心の支え、慰めになるのではと思って私事をあえて書かせて頂きました。